

8-14
婦人労働業務参考資料第68号

保存資料

短期職業講習会修了者の現況

1969年12月

労働省婦人少年局

婦人少年局婦人労働課

は し が き

婦人少年局では、中高年令婦人に対し職業能力を賦与し、その就職を容易にするとともに、中高年令婦人の適職の開拓に資することを目的として、昭和42年度以来毎年短期職業講習会を実施している。この間、講習職種は、医療事務、経理事務に本年度より厚生事務を加え、また、実施地は延17カ所、受講者数は延243名になっている。今回この講習会の成果をは握し、今後の本事業運営の参考にするため、43年度までの修了者の現況を調査し、その結果をとりまとめた。

Ⅰ 調査のあらまし

1 調査の対象者

昭和42年度及び43年度に実施した短期職業講習会の修了者全員(243名)とした。その内訳は次表のとおりである。

そのうち有効な回答は、205名（85.2%）であつた。

Ⅱ 調査結果の概要

1 講習会修了後の就職状況

(1) 講習会修了後の就職状況

講習会修了後1年以内に就職した者は170人（医療事務101人、経理事務69人）で修了者の82.9%であつた。なお、約7割の142人は講習会修了後3ヵ月以内に就職し、また、修了後6ヵ月以内には約8割の156人が就職している。

第1表 職種別にみた講習会修了者の就職状況

（単位 人）

区分 職種別	計	就職した (1年以内)	就職した うち、修了後6ヵ月以 内に就職した者	就職しない
計	205 (100.0)	170 (82.9)	156 (76.1)	35 (17.1)
医療事務	129 (100.0)	101 (78.3)	94 (72.9)	28 (21.7)
経理事務	76 (100.0)	69 (90.8)	62 (81.6)	7 (9.2)

注) ()は%

講習会修了後就職しなかった者についてその理由をみると「就職先がなかった」と答えた者が20人と最も多く、そのうち10人が医療事務に集中しており、また、就職口があっても労働条件（特に労働時間）がかみ合わなかったと答えた者も医療事務に多い。次いで「その他が11人で、「修了後就職できない個人的理由（病気、夫の転勤等）が発生した」と答えている。

次に、就職後の就業の状況は、表2のように講習会修了後就職した者のうち「現在も同一事業所に就業している者」が97人（57.1%）と最も多く、次いで「転職したが現在就業している者」が37人（21.8%）と講習会修了後就職した者のうち134人（79.2%）が現在も引き続き就業している。また、職種別には医療事務、経理事務とも講習会修了後就職した者の約8割が現在も引き続き就業しているが、約2割がそれぞれ離職している。その離職した理由として主なものは、「家庭責任との両立ができなかった」、「夫の転勤」、「病気・出産・結婚した」等個人的事情によるものが多いが、また、受入れ側の問題として「職場の人間関係がうまくゆかなかった」、「人員整理」等をあげている者もいる。

第2表 職種別にみた就職者の就業状況の内訳
(単位 人)

区 分 職 種 別	計	就 職 し た		
		現在も同一事業所に就業している	転職したが現在就業している	現在就業していない
計	170 (100.0)	97 (57.1)	37 (21.8)	36 (21.1)
医療事務	101 (100.0)	58 (57.4)	22 (21.8)	21 (20.8)
経理事務	69 (100.0)	39 (56.6)	15 (21.7)	15 (21.7)

注) ()は%

第3表 年令別にみた講習会修了者の就職状況
(単位 人)

区 分 年 令 別	計	就 職 し た	就 職 し な い
34才未満	23 (100.0)	21 (91.3)	2 (8.7)
35 ~ 39才	62 (100.0)	49 (79.0)	13 (21.0)
40 ~ 44才	69 (100.0)	56 (81.2)	13 (18.8)
45 ~ 49才	45 (100.0)	39 (86.7)	6 (13.3)
50才以上	6 (100.0)	5 (83.3)	1 (16.7)

注) ()は%

第4表 配偶関係別にみた就職状況

(単位 人)

配偶関係別 \ 区 分	計	就職した	就職しない
有 配 偶	145 (100.0)	115 (79.3)	30 (20.7)
死 離 別	37 (100.0)	35 (94.6)	2 (5.4)
未 婚	23 (100.0)	20 (87.0)	3 (13.0)

注) ()は%

なお、就職状況を年齢別にみると、オ3表のように「34才未満」が最も就職率が高く23人のうち21人(91.3%)が就職しており、最も低いのは「35～39才」の62人のうち49人(79.0%)である。また、配偶関係別では、オ4表のように有配偶より死離別・未婚が高くなっている。

(2) 産業別・規模別の就業状況

現在就業している者134人(医療事務80人、経理事務54人)の産業別の就業状況をみると、医療事務については51人(63.6%)が医療保健の産業に雇用されており、また、経理事務についてはサービス業、製造業、卸売小売業、建設業など各種の産業にわたっている。規模

別には下表のように、「30人未満」が最も多く72人
 (53.7%)、次いで「30人～49人」が33人(24.6%)
 と100人未満の小規模事業所にその割合が就業している。

規模別	30人未満	30人～49人	100人以上
構成比	72人(53.7)	33人(24.6)	29人(21.7)

注) ① 現在就業している者 = 100.0
 (134人)

② () は %

第5表 職種別にみた産業別就業者数

(単位 人)

区分 職種別	計	サービス業		製造業	卸売 小売業	金融 保健業	建設業	その他の 産業
			そのうち医 療保健業					
計	134 (100.0)	72 (53.7)	52 (38.0)	21 (15.7)	11 (8.2)	9 (6.7)	7 (5.2)	14 (10.5)
医療事務	80 (100.0)	56 (70.0)	51 (63.8)	10 (12.5)	3 (3.8)	2 (2.5)	1 (1.2)	8 (10.0)
経理事務	54 (100.0)	16 (29.6)	1 (1.7)	11 (20.4)	8 (14.8)	7 (13.0)	6 (11.1)	6 (11.1)

注) ① 「その他の産業」とはサービス業、製造業、卸売
 小売業、金融保健業、建設業以外に就業している
 者がきわめて少数のため、一括したものであり、
 このため他の産業と数値のうえでは、同列にする
 ことは適当ではないので、比較することは避けた。

② () は %

(3) 従事している仕事の状況

現在、主として従事している仕事をみると、表6のように医療事務では「医療事務」に従事している者が最も多く48人(60.0%)、次いで「受付事務」19人(23.8%)、「一般事務」17人(21.3%)となっており、経理事務では「経理事務」が32人(59.3%)と最も多く、次いで「一般事務」14人(25.9%)となっている。また、「医療事務と受付事務」、「医療事務と薬品購入」、あるいは「経理事務と一般事務」等2つの仕事を兼務している例も多い。

第6表 職種別にみた主として従事している仕事別就業状況

(単位:人)

区 分 職 種 別	合 計	一 般 事 務	受 付 事 務	医 療 事 務	経 理 事 務	薬 品 購 入	看 護 助 手	秘 書 多 く い る	交 換 手 等	外 交 員	販 売 員	出 荷 係	そ の 他
医療事務	80 (100.0)	17 (21.3)	19 (23.8)	48 (60.0)	9 (11.3)	5 (6.3)	3 (3.8)	2 (2.5)	2 (2.5)	2 (2.5)	3 (3.8)	-	
経理事務	54 (100.0)	14 (25.9)	1 (1.9)	-	32 (59.3)	1 (1.9)	2 (3.7)	2 (3.7)	2 (3.7)	4 (7.4)	3 (5.5)	1 (1.9)	

注) ① 2以上の仕事を兼務している者がいるため%の合計は100.0%をこえる。

② 外交員とは、生命保険、集金、調査等の外交である。

③ ()は%

2 労働条件等について

(1) 雇用形態の状況

現在就業している者 134人のうち、フルタイムが92人(68.7%)、パートタイムが24人(17.9%)で、いずれも常用が多くなっている。また、特定日就労は18人(13.4%)でそのうち15人が医療事務修了者である。

第7表 職種別にみた雇用形態の状況

(単位 人)

区分 職種別	合 計	フルタイム		パートタイム		特定日就労
		常用	臨時	常用	臨時	
合 計	134 (100.0)	86 (64.2)	6 (4.5)	18 (14.2)	6 (3.7)	18 (13.4)
医療事務	80 (100.0)	52 (65.0)	2 (2.5)	8 (10.0)	3 (3.8)	15 (15.0)
経理事務	54 (100.0)	34 (63.0)	4 (7.4)	11 (20.4)	2 (3.4)	3 (5.6)

注) () は %

次に、雇用形態別の1ヵ月当りの労働時間は、表8のようにフルタイムでは「151～200時間」が73人(79.4%)と最も多く、パートタイムでは「100～150時間」が9人(37.5%)と最も多い。また、特定日就労

では 99 時間以下が 12 人 (66.7%) と短時間就労者が多い。

第 8 表 雇用形態別にみた 1 ヶ月当りの労働時間の構成比
(単位 人)

区 分 雇用 形 態 別	計	99 時 間 以 下	100 5 150 時 間	151 5 200 時 間	201 時 間 以 上	拘 束 さ れ な い
計	134 (100.0)	15 (11.2)	20 (14.9)	85 (63.4)	9 (6.7)	5 (3.8)
フルタイム	92 (100.0)	-	9 (7.8)	73 (79.4)	9 (9.8)	1 (1.0)
パートタイム	24 (100.0)	3 (12.5)	9 (37.5)	12 (50.0)	-	-
特定日就労	18 (100.0)	12 (66.7)	2 (11.1)	-	-	4 (22.2)

注) ① 1 ヶ月当りの労働時間とは、1 ヶ月を 25 日とした休憩時間を除く所定労働時間をいう。

② () は %

(2) 賃金の状況

賃金形態は次の表のように「月給」が最も多く 83 人 (61.9%)、次いで「日給・月給、歩合給」が 18 人

(13.4%)である。1ヵ月当りの労働時間別に賃金額をみると、「99時間以下」では「8,000～14,999円」が10人(66.7%)と最も多く、「100～150時間」では「15,000～24,999円」が8人(40.0%)、「25,000～34,999円」が6人(30.0%)とその7割が「15,000～34,999円」に集中している。また、「151～200時間」では「25,000～34,999円」が43人(50.6%)と最も多く、「201時間以上」では「35,000円以上」が4人(44.4%)と最も多くなっている。概して1ヵ月当りの労働時間に比例して賃金額が伸びている。

賃金の最高額は、医療事務では49,444円、経理事務では48,000円、また、最低額は、医療事務では5,000円、経理事務では7,000円である。(最低額はいずれも特定日就労者である。)。平均賃金は、医療事務23,465円、経理事務28,030円である。

第1表 職種別にみた賃金形態の状況

(単位 人)

区分 職種別	合計	月給	日給	時間給	日給・月給 歩合給	不明
合計	134 (100.0)	83 (61.9)	15 (11.2)	17 (12.7)	18 (13.4)	1 (0.8)
医療事務	40 (100.0)	50 (62.5)	10 (12.5)	10 (12.5)	9 (11.3)	1 (1.2)
経理事務	54 (100.0)	33 (61.1)	5 (5.4)	7 (13.0)	9 (20.5)	—

注) () は %

第10表 1カ月当りの労付時間別にみた賃金の状況

(単位 人)

区分 労付時間別	計	7,999円	8,000 5 14,999円	15,000 5 24,999円	25,000 5 34,999円	35,000円 以上	不明
計	134 (100.0)	2 (1.5)	15 (11.2)	40 (29.9)	51 (38.1)	21 (15.7)	5 (3.6)
99時間以下	15 (100.0)	—	10 (66.7)	3 (20.0)	—	—	2 (13.3)
100~150時間	20 (100.0)	1 (5.0)	3 (15.0)	8 (40.0)	6 (30.0)	1 (5.0)	1 (5.0)
151~200時間	85 (100.0)	—	—	25 (29.4)	43 (50.6)	16 (18.8)	1 (1.2)
201時間以上	9 (100.0)	—	—	3 (33.3)	2 (22.2)	4 (44.4)	—
拘束されない	5 (100.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	—	—	1 (20.0)

注) () は %

3 勤続の意志

現在就業している者のうち、今後仕事を続けてゆくかどうかという勤続の意志について「長く続けたい」と答えた者が最も多く81人(60.4%)、次いで「2～3年は続けたい」が32人(23.9%)となっており、「やめたい」と答えた者はわずか3人(2.2%)で勤続の意志を持っている者が圧倒的に多い。

4 講習会に対する意見

講習会の受講者が講習会に対してどのような感想を持っているかをみると、「有益であった」と答えた者が180人(87.0%)と最も多く、その理由として「仕事に自信がついた」、「良い労働条件で就職できた」、あるいは「長年家庭にこもっていた者にとって外に出て働くきっかけとなった」ことをあげている。また、講習内容については講習会は有益であったが、実務の時間が不足であったことをあげている者が多い。「役に立たなかった」と答えた者はわずか12人(5.8%)で、講習を修了したにもかかわらず講習とは関連のない所に就職していることを理由としてあげている。しかし、全般に「有益であった」と考えている者が圧倒的

に多く、現在就業していない者でも再度受講し就職のチャンスをつかみたいと希望している者も多い。

第11表 職種別にみた勤続の意志

(単位 人)

区分 職種別	合 計	長く 続け たい	二 三 年 は 続 け たい	や め た い	わ か ら ない
合 計	134 (100.0)	81 (60.4)	32 (23.9)	3 (2.2)	18 (13.5)
医療事務	80 (100.0)	49 (61.3)	18 (22.5)	1 (1.2)	12 (15.0)
経理事務	54 (100.0)	32 (59.3)	14 (25.9)	2 (3.7)	6 (11.1)

注) () は %

短期職業講習会修了者の現況調査

労 働 省 婦 人 少 年 局
昭 和 4 4 年 8 月

氏名		年齢		事業所名		TEL	
----	--	----	--	------	--	-----	--

I 講習会修了後の就労状況について

1 あなたは講習会修了後就職しましたか。

イ した



講習会修了後はじめて就職したのはいつ頃ですか。

a 現在も同一事業所に就業している。

b 転職したが、現在就業している。

c 現在は就業していない。

(昭和 年 月 日)

ロ しない

a 就転職先がなかった。

b 就転職したくなかった。

c 家庭内で内職している。

d その他 ()

2 現在の労務条件について。

イ 勤務先の事業 ()

ロ 勤務先の従業員数 a 30人未満 b 30人～99人 c 100人以上

ハ 現在従事している仕事 ()

ニ 労働時間 () 時～() 時まで うち休憩 () 時間 () 分

ホ 雇用形態 a フルタイム (常用・臨時)

b パートタイム (常用・臨時)

C 特定日就労 (1ヵ月当り 日程度)

へ 賃 金 a 形態「月給・日給・時給・その他()」

b 月額 円 (労働日数 日)

II 今後ち仕事を続けてゆくつもりですか

イ 長く続けたい ロ 2～3年は続けたい

ハ やめたい ニ わからない

III 講習会を受けたことは有益でしたか

1 有益であつた。 イ 仕事に自信がついた。

(理由はいくつで ロ 良い労働条件で就労できた、
とかありません)

ハ その他 ()

2 役に立たなかつた。

3 その他 ()

IV ご意見

調査票は8月20日までにご返送下さい。

記入上の注意

1. 該当する項目には○印をつけ（ ）には具体的内容を書いて下さい。
2. 「2のイ」欄の勤務先の事業は繊維製造業、医療保健業、○○小売業等具体的な事業の種類を記入して下さい。
3. 「2のハ」欄の現在従事している仕事は主として従事している仕事、例えば経理事務、医療事務、○○販売、○○外交等を記入して下さい。
4. 「2のホ」欄の雇用形態のうち
フルタイムとは、所定労働時間が当該事業所の一般労働者と同一のものをいう。
パートタイムとは、前述の所定労働時間が一般の労働者より短いものをいう。
常用とは、雇用期間について別段の定めがないが、一年をこえる期間を定めて雇れているもの。
臨時とは、日々又は一年以内の雇用期間を定めて雇れているものをいう。
5. 「2のヘ」欄の月額は最近1ヵ月分の賃金総額（諸手当を含めた控除前の賃金額、ただし、賞与は含めない）、労働日数は前述の賃金計算期間1ヵ月間の実労働日数を記入して下さい。
6. IVのご意見欄は何でもけっこうですから、講習会あるいは職業上、その他のご意見をお書き下さい。

GAa1/1

8-14-68



女性と仕事の未来館



00951143